

この本知ってる？ 中・高生版 H31

ここに紹介した本は、図書館にあります。読みたい本がみつかったら、中央図書館2階ヤングアダルトコーナー、依知北・睦合北・小鮎・荻野・森の里・玉川・相川・睦合西・南毛利の公民館図書室に来てください。

本は、ひとり10冊、2週間借りられます。読みたい本が貸出中のときは、インターネットや電話、窓口で予約してください。上記以外の公民館の事務室で予約図書を受け取ることもできます。

家の近くの公民館をぜひ利用してね！

◆読んでみよう◆



『星につたえて』

安東 みきえ／文 吉田 尚令／絵 アリス館

星とクラゲが、おしゃべりをしています。星は空の広さを、クラゲは海の深さを、相手に伝えました。それは、それは、楽しいおしゃべりでした。夜明けが近づき、別れの時がきました。クラゲは、最後に大事なことを言いたかったのに……。

読み終わった後に、心が温かくなるお話です。

『アナザー修学旅行』 有沢 佳映／作 ヤマダ／絵

講談社（講談社青い鳥文庫）

骨折やケンカなどで、修学旅行に行けない、行かない7人が、3日間同じ教室で代替授業を受けることになった。メンバーは、「美少女転校生」「インテリヤクザ」「女優」「モテ男」「小動物系少女」そして「私」と「もうひとり」。退屈しのぎにはじめた「賭け」から、お互いの空気が少しずつ変わっていく。



『夏の朝』 本田 昌子／著 木村 彩子／画 福音館書店

莉子は、祖父の一周忌法要に出席するため、亡き母の実家を訪れます。そこで老婦人から、家の蓮池の花は、祖父が苦勞して咲かせた花だと聞かされます。そして「つぼみの中には何が入っているか、あなた、ご存じ？」と問われました。「中には『想い』がつまっているんですって。」と言われ、その話を聞いた後から、莉子は不思議な体験をします。亡くなった祖父と話ができるようになったのです。

◆調べてみよう・考えてみよう◆

『親子で学ぶスマホとネットを安心して使う本
知りたいことが今すぐわかる!』

鈴木 朋子/著 坂元 章/監修 技術評論社

伊東家の長女、あおいは、中学生になったお祝いに、親にスマホを買ってもらいました。しかし、両親は、心配でいっぱい。インターネットは危険なのか？ SNS のトラブルって？ ネットとお金の関係は？ ネットのマナーやセキュリティ？ あなたも、この本を読んで、伊東家のみなさんとお勉強しましょう。



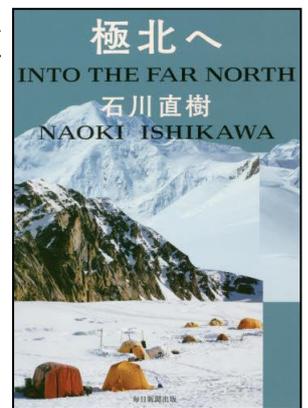
『歴史を味方にしよう』 童門 冬二/著 PHP研究所

歴史の勉強は、教科書で過去の記録を暗記するものと思いませんか？教科書に載っていないエピソードや歴史が面白くなる手がかりが、沢山詰まっています。お気に入りの歴史上の人物や場所を見つけてみてください。人間の気持ちは、過去も現代もあまり変わりません。歴史は足元を照らす灯り、みなさんが生きていくなかで、歴史から学んだことを役立ててください。



『極北へ INTO THE FAR NORTH』 石川 直樹/著 毎日新聞出版

ぼくは、高校生の頃に、カメライストの野田知佑さんと知り合い、写真家の星野道夫さんの本に出会って、しだいに極北の地へ導かれていった。二十歳の夏、カナダとアラスカにまたがるユーコン川を、カメラで旅した。その後、北米最高峰の、アラスカのデナリ登山の話が舞い込んできた。ユーコン川とデナリからはじまった極北の旅は、グリーンランド、ノルウェーへと続いていった。



『もうひとつの屋久島から 世界遺産の森が伝えたいこと』

武田 剛/著 フレーベル館

屋久島は、1993年に日本で初めて世界遺産に登録された島です。そこに移住を決意したのが、記者として南極・北極などで、地球環境について取材してきた著者でした。北極で出会った人の言葉に心を動かされたのです。「ひとつの土地に留まってこそ、できることがある。」屋久島に住み、自分の目で確かめメッセージを発信していこうと。



『にっぽんのカラス スーパービジュアル版』

松原 始／監修・著 宮本 桂／写真 ポンプラボ／編集 カンゼン

スズメやハトに比べて嫌われ者のカラス。でも、童謡に歌われたり、サッカー日本代表のマークになったり、意外にかわいいところやカッコイイところがたくさんあります。前から、横から、後ろから、アップでとらえたカラスの姿や、飛んでいる様子、すてきなカラスライフなど、徹底的にカラスを知ることができます。カラス、人気者になるか！？



『食べるってどんなこと？ あなたと考える命のつながりあい』

古沢 広祐／著 平凡社

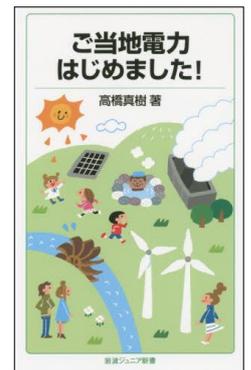
みなさんは、毎日食べているものがどこの国からきて、誰が作った食べ物なのか、知っていますか？ 1960年代と今の食事の違いやスーパーで同じ形の野菜が多い理由などが書かれています。世界には、食べ物が足りない国がある一方、捨てる国があります。食べることを通じて、社会の仕組みや自然と生き物との関係について、理解や疑問が深まります。



『ご当地電力はじめました！』

高橋 真樹／著 岩波書店（岩波ジュニア新書）

3.11東日本大震災を体験し、多くの方がエネルギーについて考えたり、関心を持ったと思います。大手電力会社から電気を買っていたけれど、それでいいのか？自分たちの使う電気を、自分たちで作りに出してもいいのではないかな？地域が主体となってエネルギーに取り組み、自立をめざす。そんな思いで活動を始めた、地域特有の「ご当地電力」の事情をレポートします。



『あるかしら書店』 ヨシタケ シンスケ／著 ポプラ社

「あるかしら書店」は「本にまつわる本」の専門店。店のおじさんに「〇〇の本ってあるかしら？」ってきくと、「ありますよ」って奥から出してくれる。たとえば、「本にまつわる仕事」の本ってきくと、『読書履歴捜査官』『カリスマ書店員養成所の1日』『文庫犬』なんて本を紹介してくれる。あなたが読んでみたい本も、このなかにあるかしら？



*中央図書館 2階 ヤングアダルトコーナーのご案内

2階の開いている時間 9時から19時まで

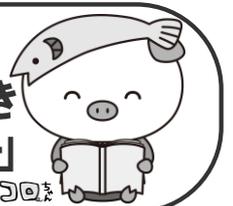
お休みの日

しせつほしゅび
施設保守日

年末年始 本の整理のとき ほか

育てよう
「読書大好き
あつぎっ子」

あゆむ回



問い合わせ 厚木市立中央図書館 〒243-0018 厚木市中町 1-1-3 ☎ (046) 223-0033